

令和7年度学校評価自己評価シート【最終】

三次市立河内小学校

【経営理念】
 ミッション（使命）：コミュニティ・スクールを核に、郷土愛・地域参画・地域貢献を意識した「資質・能力」の育成を図り「魅力ある学校づくり」を実現させ、地域（保護者）の期待に応える。学校教育目標：一人一人の個性を輝かせ、主体的に学ぶ子供の育成 ～ つながる・挑む・考動する ～

達成度	達成値	評価	A ≥ 100	80 > C ≥ 60
	_____ × 100		100 > B ≥ 80	60 > D
	目標値			

	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標 (目標値)	2月	評価	結果と課題の説明	改善計画
				達成値			
確かな学力の育成	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 個の学力の実態を把握し、個に応じた支援をする。(ICTの活用、個別指導等) 各種調査の分析をもとに、単元テスト、公的学力検査における正答率向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト平均値 80%以上 達成の児童 80%以上 三次市学力到達度検査全国平均以上の児童 80%以上 	103 111	A A	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任氏の実施を引き続き行った。 全校学習タイムでは、下学年の復習や前期の復習を取り入れ、全教職員で全児童に関わって学力定着を図った。 【結果：国語科・算数科において、単元末テスト平均値 80%以上の児童が 83% 三次市学力到達度検査全国平均以上の児童 90%】 ○基礎学力が高まってきている。 ●下学年の学習内容が未定着なところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制や全校学習タイムの実施を引き続き行っていき、チームで児童の学力の定着や向上を図っていく。
	育成すべき資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生活科・総合的な学習の時間を核として、「コミュニケーション能力」「主体性」「協調性」の3つの資質能力の育成に重点を置き、深い学びを引き出す授業づくりに取り組む。 自己表現力を高めるために、自分の思いや考えを言葉で表現する機会を意識した取組を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合質問紙調査の「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」の項目で肯定的に答えた児童の割合 90%以上 	コ 111 協 101 主 111	コ A 協 A 主 A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、生活科・総合的な学習の時間を中心に、「地域の課題解決」について自分たちにできること、やってみたいことを「学習テーマ」として設定し、友だちや地域の方々との探究的な学習を行った。 地域や学校の中だけでなく、校区を出て、他校との交流を行った。 【児童アンケートの結果】 ① コミュニケーション能力 「授業中、友だちの話をわかろうとして聞いていますか。」 肯定的回答 91.7% 「授業中、友だちがわかるように話をしようとしていますか。」 肯定的回答 100% ② 協調性 「分からない問題は、友だちといっしょに考えていますか。」 肯定的回答 83.3% 「みんなでできた目標を達成するために、自分は何をがんばったらよいか考えていますか。」 肯定的回答 100% ③ 主体性 「自分でできたことは、最後まであきらめずにがんばることができていますか。」 肯定的回答 100% ○生活科・総合的な学習の時間を中心に、3つの資質能力が高まった。 ○学習したことを、地域や他の小学校へ発信することで表現力やコミュニケーション能力が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分一人では答えが出せない課題を他者と関わり合いながら答えを出していく学習を、引き続き仕組んでいく。 育てたい資質・能力について、学校と地域が常に連携・共有して取組を進めていくようにする。 資質能力の向上や地域とも協働的な学習をより効果的に行えるように、生活科・総合的な学習の時間では、新コアカリキュラムの単元計画をもとに進めていく。
豊かな心の育成	自己効力感の向上	<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意なことや興味があることを伸ばしていこうとする意欲や主体性、向上心をもたせる取り組みを行う。 作品応募、各種大会参加を積極的に行い、挑戦することを通して自己効力感を高め、ひいては自己肯定感を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「自己効力感」「自己肯定感」に関する項目において、肯定的な回答をした児童の割合 90%以上 	効 102 肯 92	効 A 肯 B	<ul style="list-style-type: none"> 音楽交流会、校内マラソン大会、スプリングライブなど、一人一人の個性が発揮できる場面を設定し、自己肯定感の向上を図った。 作品や習い事についての表彰を朝の会等を利用して定期的に行った。 【児童アンケートの結果】 ① 自己効力感 「むずかしいことでも、失敗をおそれず、挑戦していますか。」 肯定的回答 92% ② 自己肯定感 「自分には、よいところがあると思いますか。」 肯定的回答 83% ○学校教育目標である「つながる・挑む・考動する」という理念が定着してきている。 ●児童アンケートにおいて、自己肯定感が低い児童の変化があまり見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も、学校行事や陸上などの各種大会や作品応募などの機会を通して、一人一人の個性が発揮できる場面を設定する。表彰朝会などの機会でも、結果だけでなく、頑張ってきた過程を肯定的評価する。
	自己指導能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「なりたい自分」(目標)を設定し、達成するために取り組みたいことや頑張ることを自己決定させる。 目標達成に向けて自己管理や自己評価・改善をしながら進めていけるよう仕組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「自己指導能力」に関する項目において、肯定的な回答をした児童の割合 90%以上 	111	A	<ul style="list-style-type: none"> マラソンや縄跳びでは、目標を持たせ、日々の記録をとって成長を視覚化した。 音楽発表会やふれ愛まつりの練習では、毎時間の目標を明確にしてゴールまでのイメージを持たせた。 【児童アンケートの結果】 「なりたい自分」にむけて、目標を決め、いっしょけんめいがんばっていますか。 肯定的回答 100% ○児童一人一人が「なりたい自分」を自覚し、計画を立てて行動に移す力がついてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なりたい自分」に向けて児童が目標を設定する際、より適切な設定ができるように発達段階に合わせて視点を示す。 目標についてのふり返りを定期的に行い、自己調整力が向上するようにする。

健やかな体の育成	基本的な生活習慣の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・みよし学園で連携しながら「生活づくり週間」の取組を毎学期実施する。 ・栄養教諭と連携した食育指導を行い食の大切さへの理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3点固定が定着した児童の割合80%以上 ・メディアコントロール実施による達成率80%以上 	<p>三点固定 95</p> <p>メディア 125</p>	<p>三点固定 B</p> <p>メディア A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月19日～1月23日の平日5日間に、起床時刻・就寝時刻・朝食喫食・メディアの使用方法に関する「生活づくり週間」の取組を実施した。 ・取組開始前に、養護教諭と面談し、自分の普段の生活を振り返った。よりよい生活リズムとなるように起床時刻や就寝時刻等の目標を立てた。 ・早寝・早起き・朝ごはんの基本的な生活習慣を身につけさせるために、保健だよりや保健掲示物で、睡眠の大切さやメディアの使い方についての啓発を行ったり、朝の会で保健指導を行ったりした。 ・「生活づくり週間」の取組開始日に、児童美化保健委員会が睡眠の大切さについて発表した。 <p>【生活づくり週間の取組の結果】</p> <p>① 自分で決めた起床時刻どおりに生活できた割合 61.5%→78.3%</p> <p>② 自分で決めた就寝時刻どおりに生活できた割合 58.6%→63.3%</p> <p>③ 朝食を食べてから登校した割合 86.5%→86.7%</p> <p>④ メディアのルールを守って生活できた割合 80.8%→100%</p> <p>●起床時刻・朝食喫食については、ほとんどの児童が目標を達成することができたが、就寝時刻については、目標通りに生活することができた児童の割合が63.3%であり、課題がある。</p> <p>○その一方で、前回の取組時の結果と比較すると、就寝時刻を守るために、児童全員がメディアの使用を控えることができていた。また、極端に睡眠時刻が遅い児童はみられなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの使用が及ぼす心身への影響や、食と健康のつながり等、三点固定の定着に向けて、来年度も引き続き、朝会の時間に保健指導を行ったり、栄養教諭による栄養指導を行ったりしていく。 ・児童の課題に応じた様々な保健情報について、保健だより等で保護者に啓発・周知を図り、家庭と連携した健康づくりを行っていく。 ・メディア以外の時間の過ごし方について保健だよりで啓発したり、児童のアイデアを掲示したりすることによって、主体的にメディアコントロールができるようにしていく。
	体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科授業の工夫と、業間体育の継続により運動能力向上を図る。 ・新体力テストの結果をもとに、課題のある項目に重点をおいた取組を通して、体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力調査において、国・県平均を上回った児童の割合80%以上 	104	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科では、毎時間準備運動を行った。 ・今年度、業間運動は行わなかった。マラソンや縄跳びのカードを活用したり、日常的に体力向上に励んでいる児童を表彰したりして、児童自身が進んで運動する環境作りに取り組んだ。 <p>【新体力テスト結果：国・県平均を上回った児童の割合83%】</p> <p>○マラソン大会では、全員が記録を伸ばした。</p> <p>●3学期に「握力」を測定し、向上した児童は50%であり引き続き、課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2月に「走り方教室」を実施予定。 ・どの学年も、ねらいに沿った活動ができるよう、全学年で行う体育科の時間を工夫していく。 ・体育科の授業や校内の体育的行事や学校外での陸上大会を軸として、運動する習慣を啓発していく。
信頼される学校	コミュニティ・スクールの充実・発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域創生」をテーマにした探究型カリキュラムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究型カリキュラムの取組を学期に1回以上実施する。 ・探究型カリキュラムに係る情報発信 各学年学期に1回以上 	100	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題や願いについて解決していくために1学期に設定した「学習テーマ」について、地域の方々と協働して継続して取組を進めた。地域のために自分たちが貢献できていると実感できる場面があることで、児童の学習意欲も向上し、より地域と学校とのつながりが強くなった。 ・取り組んだことについては、学級通信や学校だより、「ともえ2040」にて毎月情報発信を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働的な学習や活動がコミュニティ・スクールの活動として位置づいていくよう体制を整えていき、来年度につなげていくようにする。
	地域から学校への満足度・信頼度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアの活用や学校便り・小中一貫だより、コミュニティ・スクール広報誌等の定期発行、ホームページによる積極的な情報発信をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校が安心して楽しい」と思う児童・保護者の割合90%以上 ・HPや通信等でC.Sに係る取組を毎月発信 	<p>児童 83.3</p> <p>保護者 83.3</p> <p>発信 100</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校が安心して楽しい」と思う児童の割合が83.3%、保護者の割合が83.3%であった。 ・学校での取組について保護者や地域の方々に理解し、支援していただけるよう、学校行事や地域行事などについて「学校だより」「ともえ2040」などで発信した。 ・地域の方に協力をいただいた学習や取組の様子について、ホームページ更新を積極的に行うとともに、学級通信等で発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での児童の変化を捉え、スクールカウンセラー等とも連携し、必要に応じた組織的な取組を進めるようにする。 ・学校や家庭での児童の様子を保護者と共有し、連携を図りながら、一人ひとりの児童が毎日楽しく、安心して学校に通えるように支援や取組を引き続き進めていくようにする。 ・今後も学校での学習活動や子ども達の様子について、ホームページや学級通信を活用し、定期的に発信していき、河内地域以外の方々に広く河内小学校の特色や取組を知っていただけるようにする。

※学校評価者指標 (一つに○) A：たいへんよい B：概ねよい C：改善の必要がある